



## 将来都市像

■将来都市像・・・都市計画マスタープランの推進により実現を目指すまちの姿。  
まちの特性や課題、将来に対する希望やメッセージを含め、概ね20年後の姿を設定。

### 目標年次

#### ■見直しの背景

- 大村市では2012年（平成24年）年3月に2028年（平成40年）を目標年次とした都市計画マスタープランを策定。
- 策定から概ね10年が経過し、社会情勢が変化、各種計画が変更。
- 社会動向への対応や、上位関連計画との整合を図るため計画の見直しが必要。

2012年

2022年  
(見直し時)

2028年

#### 社会動向の変化

- 都市部から地方への移住志向
- 都市農地の価値を見直す動き

- 持続可能な都市づくりへの要請
- 多様な働き方の推進に伴う居住地選択の幅の広がり
- 災害の頻発・激甚化、安全・安心に対する社会要請 等

#### 都市現況の変化

- 市立大村市民病院の建替/開院（H29）
- 木場スマートIC開通（H30）
- 第2大村ハイテクパーク竣工（H31）
- ミライオンオープン（R1）
- 国道34号大村拡幅、大村諫早拡幅（事業中）
- 新大村駅周辺土地区画整理事業（事業中）
- 池田沖田線（竹松工区事業中）
- 第5次大村市総合計画・後期計画（R3.3策定予定）
- 新幹線新大村駅（仮称）周辺地域まちづくり計画（H26）
- 新幹線開業アクションプラン（H31）
- 大村市地域公共交通網形成計画（H28）
- 大村市地域公共交通再編実施計画（R2） 等

#### ■計画の目標年次

- 都市計画マスタープランは、概ね20年後の都市像を展望し、その実現に向けた道筋を示すもの。
- 目標年次は概ね20年後の2040年と設定し、今後の社会情勢等の変化に対応するため、概ね10年後に改めて見直しを実施する。

2022年  
(見直し時)

概ね  
10年後

2040年

次回の見直し

計画期間

#### ■目標人口（2040年における人口）

- 都市計画マスタープラン：大村市人口ビジョン値 101,123人
- 立地適正化計画：国立社会保障・人口問題研究所(社人研)推計値 90,951人

#### ■将来都市像(現行都市計画マスタープランP36)

##### 日本一“住みたくなるまち”大村

大村市は、豊かな自然、歴史資源の魅力とともに、良好な居住環境によって、長崎県でも有数の住みやすい都市として発展してきました。

また、空港、新幹線、高速道路など充実した交通体系の活用により、賑わいや交流機能を高める可能性を秘めています。

こうした大村市が持つ魅力や機能を活用することで、新たな都市文化や暮らしの場を創出し、訪れる人、住む人を大きく増やすことができます。

本計画では、こうした“住”と“交流”に重点を置き、自然・歴史文化と充実した都市機能の魅力が育むまちを目指し、将来都市像を「日本一住みたくなるまち大村」と定めます。

#### ■将来像(第5次大村市総合計画) 2016(H28)～2025(R7)

##### ～行きたい、働きたい、住み続けたい～

##### しあわせ実感都市 大村

“しあわせ”の感じ方は人それぞれですが、ご自身やご家族の健康、趣味や生きがい、子どもたちの健やかな成長、家族の絆など「日常生活の様々な場面で、誰もがしあわせを実感できるまち」、これが大村市が目指すまちの姿です。

市民の皆様とともに、しあわせを実感できるまちづくりを進め、“行きたい”、“働きたい”、“住み続けたい”と思える魅力的なまちを目指します。

#### 見直しのポイント

➢ 以下3点を今後の大村市を特徴づける重要な要素として捉え、それらを活かしたまちづくりの方向性を「将来都市像」として整理。

要素① 大村湾・多良山系などの豊かな自然環境と、自然と市街地が織りなす潤いある都市環境

要素② 県央の居住・就業の場としてこれまで蓄積されてきた都市機能や都市施設

要素③ 新たな交流や多様なライフスタイルを可能にする高速交通体系

#### ■将来都市像(案①)

##### 都市と自然が調和する住みやすいまち 大村

大村市は、これまで、恵と潤いをもたらす大村湾や丘陵地の緑を大切に守りながら、平野部には市民の暮らしを支える良好な市街地を形成してきました。こうした地理的特性を活かした良好な自然環境と都市環境は、市民の貴重な財産であり、未来の世代へ引き継いでいく必要があります。

また、九州新幹線西九州ルートの開業により、空港・新幹線・高速道路などが揃うまちとして、高速交通を活かした新たな交流が生まれ、より発展していくために、今後は、良好な自然環境・都市環境・交通環境などを活かしたまちづくりを進め、住みやすいまちになることを目指します。

以上のことから、本計画では、将来都市像を「都市と自然が調和する住みやすいまち 大村」と定めます。

#### ■将来都市像(案②)

##### 来てよし！働いてよし！住んでよし！選ばれるまち 大村

大村市は、豊かな自然環境の魅力とともに、良好な居住環境によって、長崎県でも有数の住みやすいまちとして発展してきました。また、九州新幹線西九州ルートの開業によって、居住の場・就業の場としてのポテンシャルがより一層高まっています。

今後は、本市の強みである、充実した高速交通体系と、都市と自然が調和した良好な居住環境を活用し、快適な暮らしはもとより、多様な交流やライフスタイルを提供できる魅力あるまちとして、来る人・働く人・住む人から「大村にしよう」「大村でよかった」と思われる「選ばれるまち」を目指します。

以上のことから、本計画では、将来都市像を「来てよし！働いてよし！住んでよし！選ばれるまち 大村」と定めます。

#### ■将来都市像(案③)

##### ～ひとがつながる まちがつながる～ 交流がひろがるまち 大村

大村市は、豊かな自然環境や良好な居住環境に加え、交通の利便性により、県内有数の住みやすいまちとして発展してきました。また、九州新幹線西九州ルートの開業により、空港・新幹線・高速道路などが揃うまちとして、高速交通を活かした新たな交流が生まれ、より発展していきます。

今後は、充実した高速交通体系や公共交通網、平坦な地形を活かした自転車や徒歩など、様々な移動手段を最大限に活かして、新幹線沿線市町をはじめとした様々なまちとのつながりや多様なライフスタイル、新たな交流が広がるまちを目指します。

以上のことから、本計画では、将来都市像を「～ひとがつながる まちがつながる～ 交流がひろがるまち 大村」と定めます。